

日本鉄鋼協会記事

理 事 会

第4回理事会 開催日：10月19日。出席者：中野会長
ほか 35 名。

- 1) 金属関係 10 学協会連絡委員会委員推薦の件
荒木透君（東京大学）を推薦することを決定
- 2) 科研費小委員会委員解嘱委嘱の件
阿部秀夫君（東京大学）を解嘱し、荒木透君（東京大学）を委嘱することを決定
- 3) 協会事業全般についての検討
各理事より協会事業のあり方等、発言を求めた。
アンケートが実施されることもあり、両者の意見を
考え合わせ今後の方針とすることになった。

編 集 委 員 会

第3回編集運営委員会 開催日：11月16日。出席者：
堀川委員長，ほか 7 名。

「鉄と鋼」の 60 周年記念特集号につき次回より編集
方針などを検討し準備にとりかかることになった。

第9回和文会誌分科会 開催日：11月10日。出席者：
田中主査，ほか 15 名。

1. 16件の論文審査報告があつた。
2. 鉄と鋼第59年第5号計測特集号に論文 5 件，技術
報告 2 件，技術資料 4 件，特別講演 1 件，報告 1 件
を掲載することになった。
3. 西山技術講座記事を技術資料として掲載すること
になった。
4. 討論会の要約を会誌に掲載することになった。

第9回英文会誌分科会 開催日：11月27日。出席者：
橋口隆吉主査，ほか 11 名。

1. 4 件の論文について審査報告がなされた。
2. 委員の推薦により 2 件の論文について投稿を勧誘
することとなった。

共 同 研 究 会

第2回総務幹事会 開催日：8月28日。出席者：伊木
幹事長，ほか 23 名。

下記項目について報告並びに審議が行なわれた。

1. 昭和47年3月～7月会計報告
2. 秋期部会・分科会開催予定（含調整）
3. 部会・分科会運営方法について

各部会・分科会毎に運営上の問題点，今後の方針が報
告された。

製鋼部会の再編成に関しては10月1日を目標に電気炉
部会として独立することになり，下部機構に第1，2分
科会を設置する予定である。またこれと同時に圧延理論
分科会も部会に昇格する。

耐火物分科会はメンバーを再編成し，従来は圧延工程
のみ取扱っていたが，今後は製鉄，製鋼を含めた全工程
を扱うこととなり了承された。

第41回製鉄部会 開催日：9月26～28日。出席者：池
上部会長，ほか約 120 名。

1. 特別講演

- 1) 「川崎 5 高炉の減尺吹卸操業について」
鋼管・京浜
日新・呉
- 2) 「酸素併用バーナーによる重油の多量吹込み」
日新・呉

2. 共通議題

「燃料比低下対策とその問題点」
操業・設備の両面より各種の検討が行なわれた。

3. 自由議題

原料・焼結関係…………… 5 件
高炉炉前作業の合理化…………… 2 件
高炉炉況の定量化…………… 2 件
付差物・その他…………… 3 件

4. 新設改修報告

新日鉄・大分他 2 件の報告が行なわれた。

5. 工場見学

第3日目に鋼管・京浜の原料・製鉄地区の工場見学を
行なつた。

第53回製鋼部会 開催日：11月16～17日。出席者：石
原部会長，ほか 119 名。

1. あいさつ

石原部会長 川鉄千葉製鉄所吉田所長

2. 特別講演

川鉄技術研究所長三本木貢治氏による「鉄鋼精錬の熱
力学的研究の進歩」

3. 研究発表

発表件数 25 件のうち連鑄関係は 9 件あり，内部性状
および表面欠陥の報告が多くなつた。

4. 工場見学

川鉄千葉製鉄所の転炉および連鑄設備を主体に工場見
学を行なつた。

第24回鑄型分科会 開催日：9月28～29日。出席者：
本田主査，ほか 66 名。

場所：大阪第一生命ビル内「好文クラブ」

重点テーマとして「鑄型，定盤の理論的な設計技術の
推進」を取りあげ，基本テーマとあわせて 14 件の研究
発表が提出された。

重点テーマの川鉄技研から発表された「熱応力の理論
解析からみた鑄型最適形状」は熱応力を電算機で解析し
検討したもので，熱心な討論が行なわれた。その他の研
究発表にも目新しいものが多く，内容的に充実した分科
会であつた。

2日目は久保田鉄工堺製造所および新日鉄堺製鉄所を
見学し，散会した。

鋼 板 部 会

第35回分塊分科会 開催日：11月9日。出席者：清水

部会長，長瀬主査，ほか 99 名。

1. 操業調査表
2. 分塊工場における品質管理とその問題点
3. フリーディスカッション

“手入作業における協力会社の活用方法”

品質管理の問題点については各事業所より独自の問題が提出され，興味深い討議が行なわれた。

フリーディスカッションは今回より採用された方法で約 1 時間の討論を行なった。

第 2 日目は新日鉄広畑製鉄所・分塊工場の見学を行なった。

第34回厚板分科会 開催日10月26～27日。出席者：清水部会長，三輪主査，ほか 59 名。

1. 工場操業報告
2. 厚板のショット作業とその問題点
3. 厚板の労働生産性について

ショット作業については川鉄水島がまとめを行ない，事前質問を中心に討議を行なった。とくにタッチアップの方法については各事業所でかなり事情が異なり，興味深いものであった。

労働生産性については次回分科会で継続検討する予定で，今回は資料提出と若干の質疑応答に止め，資料のまとめの行なった住金と歌山から説明を受けた。

第二日目には住金と歌山製鉄所，鋼板倉庫岸壁・厚板工場の見学も行なった。

.....

条 鋼 部 会

第33回中小形分科会 開催日：11月14日～15日。出席者：水内主査，ほか 117 名

討議テーマ

1. 条鋼製品生産のための業務分担
2. 製品表面疵の防止対策とその管理体制
3. 工場操業状況

上記テーマについて，普通鋼グループ，特殊鋼グループに分かれて討議を行なった。

業務分担については各社特色があるが，いずれも重複業務の解消を目指している。この場合，スタッフ部門への業務のしわ寄せを指摘する所が多かった。

表面疵防止対策においては，普通鋼グループでは連铸化への期待あるいは，連铸経験不足のための問題が幾つか指摘された。しかし連铸操業技術の向上は著しく，深刻な問題とはされていなかった。特殊鋼グループでは品種の特性が各社異なり，疵取り方法，検査方法およびそれらを組合わせた工程は種々である。

なお吾嬭製鋼(株)条鋼工場見学を併せ行なった。

.....

第52回計測部会 開催日：10月25～26日。出席者：野坂部会長，ほか 103 名。

1. あいさつ

野坂部会長

2. 小委員会報告

- (1) 「保全に関する教育」小委員会中間報告
- (2) 「放熱温度計」小委員会中間報告

3. 一般研究報告

- (1) 製鉄関係 4 件
- (2) 製鋼関係 4 件
- (3) 圧延関係 7 件
- (4) 製品検査のための計測 1 件
- (5) 計測技術の改善研究，新技術新製品の紹介 6 件
- (6) 計測器の検査保全上の問題 2 件
- (7) 環境管理に関する計測 6 件
- (8) その他 3 件

4. 工場見学

下松工場の酸洗，タンデムコールド，スキンパス，焼鈍設備を中心に見学を行なった。

.....

設 備 技 術 部 会

第 8 回鉄鋼設備分科会 開催日：11月16日～17日。出席者：森本主査，ほか約 100 名。

下記の議題で研究報告が行なわれた。

1. 共通議題 I

「転炉工場の集塵方法について」

鉄鋼メーカー 6 社より，転炉工場における集塵，とくに捕集方法を中心に現状と対策などについて報告された。

2. 共通議題 II

「各種連続鑄造設備について」

製鉄機械メーカー 7 社より，それぞれの連続鑄造設備についてメンテナンスを中心に報告が行なわれた。

3. 自由議題

転炉設備の保全，省力化，公害防止対策等について 6 件，連続製鋼法について 1 件の報告が行なわれた。

4. 工場見学

第 2 日目の午後，川崎製鉄(株)水島製鉄所転炉工場を中心とした工場見学を行なった。

.....

標 準 化 委 員 会

第56回幹事会 開催日：10月30日。出席者：木下幹事長，ほか 11 名。

審議議題

- 1) 日本工業規格に SI 単位を採用することに対する適否について
- 2) 協会規格のあり方について
- 3) データ・シートの充実について
- 4) 中国向薄鋼板の受注規格について

.....

ISO 鉄 鋼 部 会

第22回 SCI 分科会 開催日：11月 7 日。出席者：川村主査，ほか 10 名。

S 定量方法 (Nydahl 法)

英国と Nydahl 法について共同実験を行なうため，つぎの諸点について実験し，その結果を取纏めた上英国とコンタクトすることになった。

- ① カラムから洩出するアルミナの溶液化量の測定
- ② JSS 試料 3 種の重量法による測定

③ 容量法における Al^{3+} 共存の妨害程度の測定

I S O 鉄 鋼 部 会

第26回 SC4 分科会 開催日: 10月27日. 出席者: 清水主査, ほか 6 名.

TC11/SC4 で審議しているチエンの Grade M, S, T の材料について, チエンメーカーの意見を基に材料メーカーとしての意見の取纏めを行なった.

I S O 鉄 鋼 部 会

第 14 回 SC10 分科会 開催日: 10月23日. 出席者: 郷原主査, ほか 10 名.

ISO/DIS 2608 (高温での耐力の推定方法とその保証方法), について検討し, さらに圧力容器用鋼板の鋼管・鍛鋼品規格の整列に関する日本コメントの作成および $500N/mm^2$ 以上の圧力容器用鋼板に対する日本提案の取まとめを行なった.

データシート部会

第12回構造用鋼の機械的性質分科会 開催日: 9月28日. 出席者: 八巻主査, ほか 6 名.

1. 共同実験経過報告

SCr, SMn, SMnC, SCM についての各社の実験は10月末までに完了可能の見通しであるので, 実験データを協会に送付し, 三菱製鋼で素案をまとめ, 次回に検討し, 来年2月に完成することとした.

2. ばね鋼実験結果について

SUP 6, 9, 10, 11 について, 各社のデータが提出されたので, この結果をまとめ, ばね鋼規格原案作成分科会の参考とすることで了承された.

3. 補助金の使途について

来春発刊予定のデータ・シートの購入にあてることで協会が検討することとなった.

4. データ・シート部会の活動について

当分科会は, 来年度は SNCM, SNC などの鋼種について実験を行ない, ほかに分科会を設置する場合のテーマについて, 標準化委員会などで検討することとなった.

第48回機械試験方法分科会 開催日: 10月25日. 出席者: 吉沢主査, ほか 24 名.

金属材料引張試験片・同試験方法, 金属材料衝撃試験片・同試験方法, エリクセン試験方法, ロックウエルTかたさを試験方法の JIS 見直し検討を行なった.

第 3 回薄鋼板に関する規格体系調査分科会

開催日: 10月24日. 出席者: 三佐尾主査, ほか 15 名.

分科会での検討の範囲を「炭素鋼, 高級炭素鋼など普通鋼を主体として検討を進めることを再確認し, 熱延板について各社品種の位置付けの検討を行なった.

第 1 回ばね鋼鋼材改正原案作成分科会

開催日: 10月23日. 出席者: 津谷主査, ほか 20 名.

Si-Cr 系鋼種 (SAE 9254) の追加, SUP 9 の炭素量の変更 (SAE 5155 相当から SAE 5160 への置換) また

は SAE 5160 相当の追加の是非, SUP11 (Mn-Cr-B系) の炭素量の変更, SAE 4161 相当鋼種 (Cr-Mo系) 追加の要否が検討された.

第 2 回ばね鋼鋼材改正原案作成分科会

開催日: 11月14日. 出席者: 津谷主査, ほか 20 名.

(1) 鋼種について

新たに SAE 5160, 51B60 相当の SUP9A, SUP9B を追加した. また SAE9254 相当鋼種は追加を見送った. SAE4161H についてはさらに検討する.

(2) 寸法について

乙種断面平鋼については JASO の寸法に合わせることにした. また丙種断面平鋼も JASO に合せ 13×90 を追加した.

丸鋼の標準寸法は実態調査の上検討することになった.

第 3 回リラクセーション試験方法原案作成分科会

開催日: 11月10日. 出席者: 大南主査, ほか 13 名.

前回開催のあと幹事会で2回の審議を経て「金属材料の引張リラクセーション試験方法」の素案がまとめられたので, 今回はこの素案をもとに次の議題により審議が行なわれた.

1. 金属材料のリラクセーション試験方法規格原案作成作業の進捗状況について.

2. 同上規格原案作成のための問題点並びに事項別の整理方法について.

3. 同上規格原案素案の取りまとめについて.

4. その他

以上審議の結果, 同素案は大綱として原案どおり大体承認された. 次回はこの「解説」の審議を行ない, 最終的の取りまとめとして規格原案作成の作業はほとんど終了する見込である.

第 1 回アルミニウムめつき鋼板原案作成分科会

開催日: 10月25日. 出席者: 久松主査, ほか 14 名.

アルミニウムめつき鋼板に関する JIS 規格・諸外国規格・製造会社の品質基準について調査し, さらに, JIS 化する場合の付着量の種類, 耐熱用と耐候用の2本立の可能性呼称厚さを, 原板厚さとするか製品厚さとするかなど基本的な問題についての検討を行なった.

国際鉄鋼技術委員会

第 4 回委員会 開催日: 10月24日. 出席者: 梅根副委員長, ほか 13 名.

1. IISI 技術委員会報告

6月20日~22日ブリュッセルで開催された上記委員会について日本代表委員梅根氏より報告が行なわれた.

3. UNIDO 主催第 3 回鉄鋼シンポジウムの件

1973 年 10 月ブラジルで開催される上記シンポジウムへの論文提出について事務局より報告があり承認された.

3. SEAIISI 主催鑄物シンポジウム報告

9月上旬に開催された上記シンポジウムについて協会

田畑より報告が行なわれた。

4. IISC の invite paper 提出について

1974年5月下旬にドイツで開催予定の International iron and steel congress への invite paper について共研幹事会での審議結果が報告され、承認された。

排煙脱硫試験委員会

第8回委員会 開催日：11月8日。出席者：豊田委員長、ほか14名。

1. 第7回委員会・第15回幹事会議事録確認
2. 硫安法試験結果報告
3. 試験終了届の内容について
4. 石膏法試験進捗状況報告
5. 硫安法試験中間報告提出の件
6. 46年度設備の利用申請書の件
7. 試験研究内容変更承認申請書提出の件

硫安法試験結果については液流れ試験結果および経済試算(例)について検討した。

硫安法は10月末に試験終了し、12月末迄に通産省へ文書報告の予定である。

石膏法については日程計画を説明・検討した。

ジェットエンジン耐熱合金研究委員会

第17回委員会 開催日：9月5日。出席者：雑賀幹事ほか16名。

下記について報告並びに審議が行なわれた。

1) 昭和47年度試験研究の研究分担、供試材発注先、昭和48年度補助金申請について幹事会検討結果が報告され承認された。

2) 昭和46年度試験研究中間報告(第3回)として供試材試験結果について、久保田、神鋼、小松より、熱疲労試験中間報告として、久保田、神鋼、KHI、MHI、IHIよりそれぞれ報告が行なわれた。

3) 専用熱疲労試験機に関して設置小委員会での発注先決定経過の説明の後、製作メーカーをまじえて仕様の検討を行なった。

4) その他昭和48年度以後の委員会活動について検討を行なった。

第18回委員会 開催日：11月13日。出席者：雑賀幹事、ほか17名。

下記項目について報告ならびに検討が行なわれた。

1) 昭和47年度試験用供試材の発注に関して事務局より報告があり、供試材形状、熱処理条件、納期について検討した。

2) 昭和46年度試験研究中間報告(第4回)として供試材試験結果について、日特並びに久保田より熱疲労試験中間報告として、久保田、神鋼、MHI、IHI、KHIよりそれぞれ報告が行なわれた。

3) 専用熱疲労試験機について製作メーカーと最終仕様の確認と納期について打合せを行なった。

4) その他昭和47年度試験研究の会計報告が事務局より行なわれた。

鉄鋼基礎共同研究会

第21回強度と靱性部会 開催日：11月14日。出席者：荒木部会長、ほか13名。

1. 議事録確認
2. 研究報告
 - 1) 中間段階組織の問題点について

……住金中研	大森
コメント……新日鉄基礎研	井上
 - 2) 変態組織の分類について 大森
 - 3) YUL 316 などの疲れ性質

……日立金属	井上
--------	----

3. 春ならびに秋のシンポジウム打合わせ

春のシンポジウムは2月21・23・27日のいずれかとし「鋼の組織と強度・靱性」とし、残留オーステナイト、異相混合組織粒界・2相界面、中間段階変態組織、鋼の不安定性破壊について討論を行なうように準備を進める。

第7回固体質量分析部会 開催日：10月4日。出席者：須藤部会長、ほか15名。

1. 共同実験結果報告

前回に引き続き第3回共同実験による共通試料の分析結果が各所から報告された。

2. 各グループの中間報告

(1) 第1グループ

第3回の共同実験結果の再計算と、同一装置での自動解析を行ない、その結果で今後の方針をきめる。

(2) 第2グループ

金属中のガス分析の現状について、アンケートをとる。まだ、酸素、窒素、炭素のバックグラウンドを、共通資料で分析する。

(3) 第3グループ

IMAによる深さ方向の濃度分布の測定法の検討をつづける。

3. 講演

「スパークイオン源で生成するイオンのエネルギー分布」 東大(工) 織田昌平

新 入 会 員 名

(昭和47年9月1日～9月30日)

正 会 員		伊藤 好 (株)好		森田 博之 川崎製鉄(株)	
後川 隆文	新日本製鉄(株)	石井 四郎	松代金属(株)		水島製鉄所
	八幡製鉄所	漆原 孝	巴工業(株)	学 生 会 員	
桜木 準一	〃	大越 久男	大谷重工業(株)	佐々木憲幸	熊本大学, 工学部
高村 哲司	〃	海地 哲男	宇部興産(株)		金属科
野村 昭二	〃		宇部鉄工所	杉山 紀夫	〃 金属工学科
沼沢 喬	〃 室蘭製鉄所	小浦 久宣	海南鋼管(株)	辻田公三郎	〃
潮田 安正	〃	小久保万寿男		堤 文生	〃 金属科
吉野兼一郎	〃 釜石製鉄所	小島 義彦	東京工業大精密工学	吉山 賢一	〃 金属工学科
石田 次雄	〃 基礎研究所		研究所	石見 一郎	大阪大学大学院工学研
村井 達典	住友金属工業(株)	小林 康宏	(株)蓄晃堂		究科
	和歌山製鉄所	鈴木 三郎	(株)コンピューター	中津川達雄	中部工業大学大学院
増田 彰則	〃 小倉製鉄所		アプリケーションズ		機械工学研究科
中塚 康雄	〃 鹿島製鉄所	馬場 寛二	日新製鋼(株)	永瀬 勝美	東京工業大学精密工学
増井 寛二	金属材料技術研究所	原田 文雄	光洋精工(株)国分		研究所
増田 千利	〃	白 正春	中華民国駐日大使館	藤原 諒	九州工業大学大学院
		平川 政秀	(株)三井三池製作所		金属工学科

会費納入についてのお願い

昭和 48 年分会費の納入期がまいりました。会費は毎年 12 月に 1 年分を前納するか、または毎年 12 月および 6 月の 2 回に分けて、おのおの 6 カ月分を前納していただくことになっておりますので、別送の振替用紙または現金書留にてお払込み下さいますようお願いいたします。

会員団体所属の会員にあつては幹事宛お払込下さい。なお昭和 47 年 4 月 4 日の第 57 回通常総会において会費が変更されました。

記

	会 費 年 額	入 会 金
正 会 員	4000円 (従前 3000円)	400円 (従前 300円)
学 生 会 員	2000円 (〃 1500円)	200円 (〃 100円)
外 国 会 員	4500円 (〃 3600円)	450円 (〃 360円)

宛先 100 東京都千代田区大手町1-9-4 経団連会館 3 階
社団法人 日本鉄鋼協会 郵便振替口座 東京 193 番